

2014 年第 1 回日本地球化学会評議員会議事録

日時:2014 年 2 月 15 日(土)13:00-17:00

場所:JAMSTEC 東京事務所 共用会議室 A

出席者:川幡会長, 山本副会長, 野尻副会長, 鍵, 南, 石橋, 折橋, 原田, 塚本, 佐野, 平田, 鈴木, 岩森, 大河内, 小畑, 川口, 角皆, 寺田, 藪田の各評議員, 小木曾編集長(オブザーバー参加), 高橋 TF リーダー(オブザーバー参加)

欠席者:日高, 奈良岡, 益田, 山岡の各評議員, 張年会 LOC 委員長, 清水監事

1. 審議事項

1.1. 国際文献社との 2014 年度契約(業務委託, 年会関連, HP 製作, 和文誌出版)

2014 年から和文誌出版(印刷)についても委託することが承認された。業務委託契約は, これまで庶務業務であった年会共催申請, 名誉会員年会招待状発送, 共催等問い合わせ対応, 広告掲載企業対応の 4 件を, 3000 円/月増額で 3 月より追加契約することが承認された。

1.2. 2014 年度各種委員会等

(1) 学会賞等受賞者選考委員長および鳥居基金選考委員長が承認された。

(2) 名誉会員推薦委員会委員が承認された。

(3) 将来計画委員会を組織し, 山本委員長の下に 3 つのタスクフォース(TF)および 1 つのワーキンググループ(WG)を置くこととした。

・TF1「地球化学の現状と将来」: 鍵裕之(リーダー)

・TF2「JSPS, 大型研究」: 高橋嘉夫(リーダー), 佐野有司(リーダー)

・TF3「2040 年ロードマップ」: 平田岳史(リーダー), 鈴木勝彦(リーダー)

・出版 WG: 山本鋼志, 野尻幸宏, 塚本尚義, 小木曾哲, 鍵裕之

1.3. 日本地球惑星連合(JpGU)関連委員

(1) 大会プログラム委員: 石川晃, 横山哲也, 小畑元の各会員が承認された。

(2) 教育委員: 瀧上豊, 津野宏の各会員が承認された。

(3) 男女共同参画委員: 原田尚美会員が承認された。

1.4. GJ 賞

以下の論文が学会賞等受賞者選考委員会により選定され, 受賞が承認された。

Hiroshi Amakawa, Hirofumi Tazoe, Hajime Obata, Toshitaka Gamo, Yuji Sano and Chuan-Chou Shen. "Neodymium isotopic composition and concentration in the Southwest Pacific Ocean". *Geochemical Journal*, Vol. 47 (No. 4), pp. 409-422, 2013.

1.5. タスクフォース

(1) TF1 について, 鍵リーダーから報告書作成について提案がなされた。

(2) TF2 について, 各研究分野(固体, 宇宙, 大気・海洋, 古環境, 有機・生命, 分析・物理化学, 環境・資源)の代表が, プレゼンテーションを行った。

(3) TF3 について, 平田リーダーからパンフレット作成の日程案が提示された。

1.6. ニュース配信

会員による ML ニュースの自由投稿が承認された。周知して 4 月 1 日からの開始となる。印刷を希望する 60 歳以上の会員についても案内を出しているが, 現時点ではリクエストはきていない。小木曾編集長より, 「地球化学」ニュース掲載記事を縮小する提案がなされ, 評議員会議事録, 会計報告等の会務に関する報告事項は, 学会ウェブサイト掲載のみとすることが承認された。

1.7. 出版

和文誌の電子ジャーナル化については、会費の対価サービスとして一定の意義が認められるものとして、慎重に検討を進める。和文誌「地球化学」および Geochemical Journal の活性化に向けて、評議員への投稿を促すなど、引き続き議論を続けることとした。

1.8. 年会

・石橋企画幹事より、年会準備状況が報告された。会期は9月16-18日とし、ショートコースは15日か19日、市民講演会は20日、日中フォーラムは16日の方向で調整を進めている。日中地球科学あるいは化学フォーラムの命名については、可能な限り「化学」で開催するよう求めることとした。日中行事については、先方は年会が2年に1回であることも考えにいれ、会長期一期あたり1回程度の開催でよいと考えている（川幡会長）。

・年会HP経費(約20万円)を現在は学会が負担しているが、各年会会計で負担してもらうと会の会計負担が減る、という意見があった。従前の学会からの30万円の支援金を出していないこと、LOCを引き継いだところでは開催側は何もわからないところから始めることなど、当面、学会側負担で同じHPを引き継ぐのが良いこととした。

・国際化経費(本年50万円)が、臨時か定常かについては要検討。中国側は資金力が充分あるという情報が提供された。

1.9. ゴールドシュミット国際会議(GC2016)

益田 GC 幹事より、GC2016 準備状況の報告がなされた。2014年2月3日に、日本学術会議において「国際会議共同主催に関するヒヤリング」を実施し、益田・原田・川幡が出席した。JpGU 期間中に、ケンブリッジパブリケーションとの契約締結を予定している。

2. 報告事項等

2.1. 庶務

2.1.1. メール審議(括弧内は審議期間)

- ・新幹事の承認(2013/11/30-12/5)
- ・学会賞・鳥居基金選考委員長の承認(2014/1/14-1/22)

2.1.2. 協賛・共催予定

- ・第10回核融合エネルギー連合講演会(2014/6/19-20, 主催:プラズマ・核融合学会, 日本原子力学会, つくば国際会議場, 共催)
- ・2014日本放射化学学会年会・第58回放射化学討論会(2014/9/11-13, 主催:日本放射化学学会, 名古屋大学工学部, 共催)

2.1.3. 広告

- ・「地球化学」への掲載申し込みは、2月12日現在で2社。知り合いの企業に声かけをお願いしたい。
- ・学会HPへの広告掲載は、今後、自動更新とする。前年度からの継続3社には連絡済み。

2.1.4. 学会賞・鳥居基金応募状況

1月31日締切(消印有効)に対し、柴田賞1件、学会賞2件、奨励賞5件の応募と、鳥居基金の海外渡航3件の応募があった。現在、各選考委員会において選考中である。

2.2. GJ

2.2.1. 発行・編集状況

2014年vol.48, No.1は、1月に発行された(今年度より奇数月発行)。1月1日現在の投稿数は277報、うち受理101, 却下123, 審査中50, AE選考中0, 取り下げ3となっている。特集号は、Goldschmidt 2013 “Refractory Grains, Volatiles, and Organic Molecules Inherited from the Interstellar Medium”に基づく特集号(Lydie Bonal, Shogo Tachibana, Henner Busemann)およびGoldschmidt 2014特集号(Noriko Kita, Tomohiro Usui)を予定している。

2.2.2. その他

今年度のGJ賞候補を選考し、学会賞等受賞者選考委員会委員長に報告した。

2.3. 和文誌「地球化学」

2.3.1. 2014-2015 編集委員会メンバー(敬称略)

小木曾哲(委員長), 飯塚毅, 井上麻夕里, 小畑元, 瀬戸繭美, 高野淑識, 高橋嘉夫, 田中万也, 松本潔, 若木重行の10名。飯塚氏, 瀬戸氏, 若木氏が新たに就任, 谷水氏が退任した。

2.3.2. J-STAGE搭載優先誌に選定

J-STAGEの優先誌検討会議(2014年1月28日)で, 「地球化学」が搭載優先誌に選定された, 現在, 利用開始に向けて手続き中である。

2.3.3. 発刊予定

【Vol.48, No.1】(2014年3月末発行予定)

・2012年度日本地球化学会奨励賞受賞記念論文「石英結晶の物理的性質に基づくダスト供給源推定と過去の偏西風変動の復元」長島佳菜

・2009年度日本地球化学会奨励賞受賞記念論文「ハフニウム及びタングステン同位体から読み解く初期地殻進化」飯塚毅

・企画総説「地球化学の最前線」:「鉱物表面/流体界面の構造:表面X線CTR散乱法による直接観察」佐久間博, 川野潤

・報文「北海道北西部の声問層~沖積層に胚胎する溶存メタンの起源」玉村修司, 赤塚真依子, 井川怜欧, 越谷賢, 清水了, 上野晃生, 大味泰, 金子勝比古, 五十嵐敏文, 丸井敦尚

【特集号企画】「太陽系探査と宇宙化学:「はやぶさ」「かぐや」「はやぶさ 2」そしてその先へ」(Vol.48, No.4 掲載予定)

編集委員:橘 省吾(ゲスト編集委員), 若木重行. 投稿申込締切:2014年2月20日, 原稿締切:2014年6月20日。「はやぶさ」が持ち帰った小惑星イトカワ表面試料や「かぐや」の月周回探査が宇宙化学に果たした貢献, 本年打ち上げ予定の後継ミッション「はやぶさ2」のめざすもの, 宇宙化学に発展に深く関わる将来探査計画, などについてまとめられた総説記事を中心に構成する予定。

2.3.4. 編集状況

審査中1報(報文), 企画総説「地球化学の最前線」1報, 総説1報, 受賞記念論文2013年分4報, 2012-2003年分10報を依頼中。

2.4. 企画

・2015年度年会について, 実行委員長を小林憲正会員にお願いし, 横浜国立大学を会場とする予定である。(2月20日の段階で, 小林委員長とコンタクトできて, 会長と企画幹事より正式に依頼を行った。)

・2016年度についてはゴールドシュミット日本開催と重なるため, 規模や日程等について今後検討する。

2.5. 広報

2.5.1. 2014-2015 広報委員会メンバー(敬称略)

乙坂重嘉(ウェブ削除, 年会プレス), 山下勝行(ゴールドシュミット), 薮田ひかる(ニュース), 平野直人(連合大会ブース), 三村耕一(講師派遣), 原田尚美(ウェブページ更新, パンフレット, ゴールドシュミット, 年会), 山口耕生(成果紹介)の7名。

2.5.2. JpGU

地球化学会展示ブース申し込み済み。

2.5.3. ゴールドシュミット 2014

展示ブース申し込み中。

2.5.4. 講師派遣事業

H25年度実績9件(2013/11/25現在)。

2.5.5. ニュース配信

会員による自由配信対応済み。

2.6. 会計

2013年会計収支は、約120万円の赤字決算見込みである。しかし2014年予算では、印刷費、旅費、編集費で計約140万円の削減が見込まれるため、2014年決算では大幅な赤字にはならないと予想される。賛助会員、協賛企業の定義を検討する必要があるとの意見が出された。また、戦略的資金を確保するため、恒常的な赤字は危惧されると川幡会長よりコメントがあった。

2.7. 会員

入退会は承認するが、除名については、除名者に継続あるいは円満退会を勧め、第2回評議員会承認に先送りとする事とした。会員数、入退会については別紙参照。

2.8. JpGU 教育問題検討委員会

2.8.1. 教育課程小委員会

次期指導要領でも多くの高校生が地学を履修できるように、検討を開始した。連合大会のパブリックセッション「次期学習指導要領における高校地学教育のあり方」で現状報告および意見募集を行う。

2.8.2. 教員養成小委員会

現在ヘッド不在のため、活動が休止状態である。

2.8.3. 地学オリンピック関係

12月の予選では1689名の応募があり、昨年の1011名から大幅に増加した。3月の本選進出者69名のなかから、4名の日本代表を決定する。大会開催地については近々公表される予定である。2016年8月末の三重大会に向け、寄付金の税金優遇措置のある認定NPO法人に向けて申請中である。

2.9. その他

・鳥居基金に関し、渡航経費としての基金授与が制度上受けられない職場があることについて、問題点を議論し、情報を収集することとなった。

2.10. 次回幹事会・評議員会予定

- ・2014年第2回幹事会:5月下旬～6月上旬
- ・2014年第2回評議員会:6月中にメール会議
- ・決済のため、隔月の1度くらいメール会議を開催する可能性あり。

(庶務幹事・山岡香子)